

道内の感染状況等について

【令和4年2月3日】

主な指標の状況

2/2	レベル	移行指標				その他指標		
		病床 使用率	重症病床 使用率	10万人当たり 新規 感染者数	10万人当たり 療養者数	新規 感染者数 今週 先週比	感染経路 不明割合	PCR 陽性率
全道	2	30.7% (634床) ↑	0.7% (1床) ↑	381.1人/週 (19928人/週) ↑	445.3人 (23285人) ↑	1.73 ↑	69.5% ↑	32.4% ↑
	札幌市	35.0% (218床) ↑	0.0% (0床) →	547.6人/週 (10742人/週) ↑	580.9人 (11395人) ↑	1.80 ↑	87.3% ↑	34.4% ↑
	札幌市を 除く地域	28.8% (416床) ↑	1.1% (1床) ↑	281.2人/週 (9186人/週) ↑	363.9人 (11890人) ↑	1.66 ↑	48.7% ↑	30.4% ↑
レベル2 移行指標		20%	又は 20%	15人/週	20人			
レベル3 移行指標		50%	又は 50%	—	—			

※()は実数。

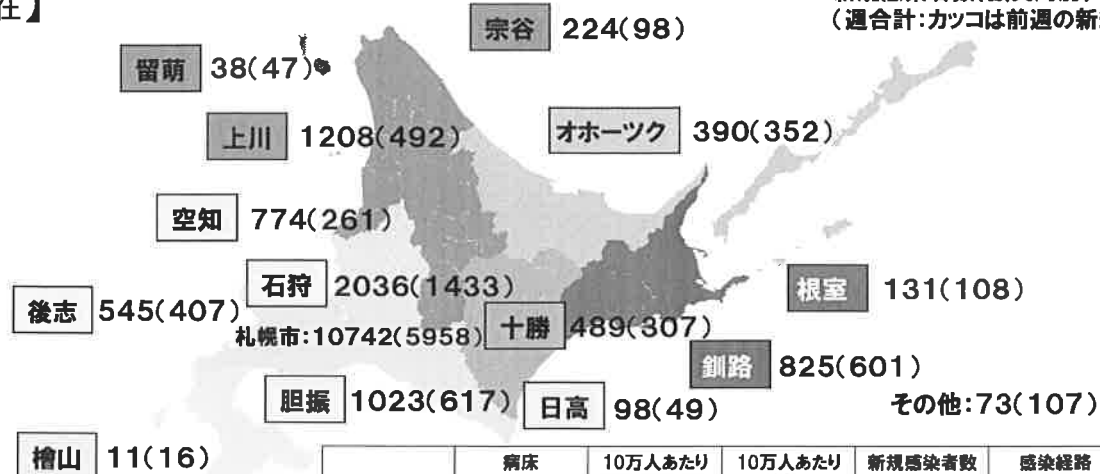
※各指標の動向(矢印)は、1週間前との比較。

※現在、高齢者施設や同居家族などに疫学調査を重点化していることから、結果として、感染経路不明割合、PCR陽性率は増加する傾向がある。

地域における主な指標の状況

【2/2現在】

新規感染者数(振興局別)
(週合計:カッコは前週の新規感染者数)



	病床 使用率	10万人あたり 新規感染者数	10万人あたり 療養者数	新規感染者数 今週先週比	感染経路 不明割合	PCR 陽性率
札幌市	35.0% (218床)	547.6人/週 (10742人/週)	580.9人 (11395人)	1.80	87.3%	34.4%
道央圏 (札幌市除く)	34.6% (158床)	330.7人/週 (4476人/週)	439.7人 (5951人)	1.62	57.2%	31.4%
道北圏	28.7% (87床)	249.0人/週 (1470人/週)	312.1人 (1842人)	2.31	40.6%	19.4%
道南圏	26.4% (55床)	318.6人/週 (1332人/週)	415.5人 (1737人)	2.03	34.5%	43.5%
十勝圏	30.7% (46床)	146.1人/週 (489人/週)	199.3人 (667人)	1.59	53.6%	48.1%
オホーツク圏	14.5% (17床)	142.5人/週 (390人/週)	217.4人 (595人)	1.11	31.0%	20.7%
釧路・ 根室圏	25.5% (53床)	321.9人/週 (956人/週)	369.7人 (1098人)	1.35	45.2%	46.1%

※地域別の病床使用率や新規感染者数等の数値は、変動が大きくなる場合があることに留意。

総評

【医療提供体制】

○ 全道の病床使用率は30.7%となり、増加が続いている。札幌市は35.0%、札幌市以外は28.8%と、全道、とりわけ札幌市内において、医療への負荷が高くなっている。

【感染状況】

- 全道の新規感染者数は増加が続いている。札幌市内の新規感染者数が半数以上を占めるものの、全ての振興局で感染確認が続いている。
- 引き続き、30代以下の感染者が多いものの、60代以上の感染者の実人数が増加している。
- 札幌市内の夜間の人流は減少している。

【今後の対策】

- まん延防止等重点措置の下、全道において、市町村と連携し、感染リスクが高まる場面などにおいて感染防止行動の徹底を図る。
- 治療が必要な方を確実に医療機関につなげられるよう、重症化リスクの高い方への健康観察や医療提供を重点的に取り組む。
- また、国の通知を踏まえて、同居家族などの濃厚接触者が有症状となった場合は、医師の判断により、検査を行わず、臨床症状で患者としてみなすことを可能とする。
- ワクチンについては、来週設置する直営の集団接種会場も活用し、高齢者等への追加接種の加速化に向け取り組む。

新型コロナワクチン接種の取組状況等について(接種の促進)

2 追加(3回目)接種等について①(「北海道ワクチン接種センター」の設置)

設置目的	現下の感染状況やまん延防止等重点措置の適用も踏まえ、2月以降本格化する高齢者等への追加接種の加速化に向けた市町村における接種を支援
接種会場	ホテルエミシア札幌(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)
対象者	道内の市町村が発行した追加接種用の接種券をお持ちの18歳以上の方 ※2回目接種完了から6か月以上経過している必要があり、高齢者等が中心となる見込
受付開始	令和4年(2022年)2月5日(土) 午前10:00～ ※WEB(道庁ホームページ)及び電話(専用コールセンター)で受付
開設期間	令和4年(2022年)2月11日(祝・金)～3月27日(日) ※上記期間中の土曜・日曜・祝日のみ計17日間、各日10:00～17:30
接種回数	約350回(人)/日、総計6,000回(人)程度
使用ワクチン	武田/モデルナ社製ワクチン ※1・2回目でファイザー社製ワクチンを接種した方も、接種可能
協力機関	北海道医師会、札幌医科大学、北海道薬剤師会、北海道看護協会、道立病院局(コドモックル)

24

新型コロナワクチン接種の取組状況等について(接種の促進)

3 追加(3回目)接種等について②(接種間隔の前倒し)

- 1月31日付け国通知で、追加(3回目)接種のペースアップに向け、2回目接種完了からの接種間隔の更なる前倒しに係る要請があった。

区分		R3.12月～	R4.2月～	R4.3月～
2回目 接種完了 からの 接種間隔	①医療従事者等 ②高齢者施設等の入所者及び従事者 ③通所サービス事業所の利用者及び従事者 ④病院及び有床診療所の入院患者	6か月	6か月	6か月
	⑤その他の高齢者	8か月	7か月(*1)	6か月
	⑥上記以外の方(職域追加接種含む)	8か月	8か月(*2)	7か月
(*1) ①～④について一定の完了が見込まれた段階で、2回目接種完了から6か月以上経過している⑤について、令和4年3月を待たず追加接種を検討。 (*2) ①～⑤について一定の完了が見込まれた段階で、2回目接種完了から7か月以上経過している⑥について、令和4年3月を待たず追加接種を検討。 また、ワクチンの量や接種体制等に余力がある場合、ワクチンの有効活用等の観点から最大限活用し、初回接種から7か月以上経過した者に次いで、6か月以上経過した者にできるだけ多く接種を進めること。				
1/31付 国通知の 内 容	・追加接種の予約枠に空きがあれば、現に高齢者に対する接種が行われている場合においても、6か月以上経過した⑥について、接種の前倒しと、そのための接種券の早期送付を要請。 ・接種間隔を短縮した⑥への追加接種に当たり、自治体の判断により、地域の社会機能を維持するために必要な事業の従事者等についての優先的な接種検討も要請。			

道としても、これまでの国からの要請・通知を踏まえ、接種の進捗状況や接種間隔の前倒しに伴う課題の把握等に努め、市町村や関係団体なども連携し、円滑な接種が進むよう取り組む。

25

新型コロナワクチン接種の取組状況等について(接種の促進)

4 その他(小児への接種、職域追加接種など)

- 5歳以上11歳以下の小児への接種については、先般、国の審議会において、公費で接種が無料となる臨時接種に位置付ける方向性が決定されたが、接種に関して努力義務を適用することなどについては、引き続き議論することとされた。一方で、国から市町村に対しては、3月から接種が開始できるよう、接種体制の整備や接種券の発行などの準備に取り組むよう要請されており、道としても、医師会や小児科医会などの関係団体との情報共有のほか、各市町村における対応の検討状況等を踏まえ、地域の実情に沿った体制構築に向け、引き続き、市町村の取組を支援する。
なお、国からは、3月中旬までの小児用ファイザー社製ワクチンの配送量やスケジュールが示され、本日、道内分約10.8万回分(2回接種が必要なため、約5.4万人相当分)の市町村毎の配分を決定・通知済(対象者数に応じ按分)。

区 分	第1クール (2/21の週～)	第2クール (3/7の週～)	計	【参考】 道内の対象者数
道内への配分	約3.4万回分	約7.4万回分	約10.8万回分	約28万人 (約56万回分)

- 職域追加接種については、昨年12月13日から国において受付開始。道内では2月2日時点で77件の申請があった。また、2回目接種完了からの接種間隔が「7か月以上」に短縮され、2月21日の週から接種開始可能とされているほか、これまで1会場当たり1,000人以上とされていた実施要件が500人以上へ緩和されるとともに、中小企業が共同実施した場合の実費補助が「1,500円×接種回数」(現行1,000円×接種回数)に引き上げられた。道としても、引き続き、各種情報提供などを含めた実施企業等の支援に努める。
- 新たに接種対象年齢となる方も含め、接種を希望される方については、本年9月30日まで初回(1・2回目)接種が引き続き可能。オミクロン株の感染拡大を踏まえ、岸田総理会見や厚労省のアドバイザーボードでも、未接種の方へのワクチン接種が勧奨されていることなどから、今後とも、希望される方が円滑に接種を受けられるよう、市町村とも連携し取り組む。